



京機短信

KEIKI short letter

No.411 2025.12.5

京機會(京都大学機械系同窓会) tel. & fax. 075-383-3713

E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp

URL: <https://keikikai.jp>

編集責任者 京機短信編集委員会

目次

- ・2026年度京機會総会・講演会・懇親会開催報告……平方寛之、大塚敏之、横川隆司 (pp. 2 – 4)
- ・関西支部: 京機カフェ（お笑い）開催報告……奥田 寛 (pp. 5 – 6)
- ・大阪・関西万博 写真レポート 最終第3弾……岡本雅昭 (pp. 7 – 15)
- ・昭和53年卒学年同窓会報告……上原一浩 (p. 16)



500系521形1号車 京都鉄道博物館本館

2025年11月8日

2026年度京機会総会・講演会・懇親会開催報告

文章：平方寛之（H9/1997卒）

写真：大塚敏之（H2/1990卒）

横川隆司（H12/2000卒）

2025年11月8日、ザ・ロイヤルパークホテル京都梅小路において、2026年度京機会総会が京都鉄道博物館の見学会と併せて開催されました。現地には76名、オンラインには29名の会員およびご家族の皆様にご参加いただきました。

総会に先立ち全体幹事会が行われ、主に決算報告と新役員候補の紹介がなされ、総会への提出が承認されました。また、京機会活動の活性化に向けた意見交換も行われました。

総会は、2025年度代表幹事の平方寛之（H9/1997卒）の司会により進行し、京機会会長・仲田摩智さん（S54/1979卒）のご挨拶から始まりました。続いて、教室の現状報告、新任・昇任教員の紹介があり、新任教員を代表して特定教授として着任された奥田晴久さん（H3/1991卒）よりご挨拶をいただきました。

2025年度活動報告では、学生会が運営を担当した「学生と先輩との交流会」や、支部協力による学生向け工場見学、脇坂資金・ナブテスコ基金による学生の国際会議参加補助、社会貢献活動（九州支部による高校への出張講義、女性キャリア講演会など）が紹介されました。引き続き、2025年度会計幹事・小森雅晴さん（H7/1995卒）による決算報告、監事・塩路昌宏さん（S50/1975卒）による監査報告が行われ、いずれも承認されました。

役員改選では、仲田摩智さんが会長に再選され、副会長案が承認されました。また、新役員体制が報告されました。続いて、新代表幹事・土屋智由さん（H3/1991卒）から2026年度活動予定、前会計幹事・小森雅晴さんから2026年度予算案の報告があり、いずれも承認されました。各支部長からは、関西支部・久保田修司さん（S62/1987卒）、関東支部・村上弘記さん（S60/1985卒）、中部支部・近藤功一さん（S61/1986卒）、中国四国支部・豊嶋範男さん（S57/1982卒）、九州支部・中村久志さん（S56/1981卒）より、それぞれ特色を生かした活発な活動状況の報告がありました。活動状況の詳細は京機会ホームページに掲載しています。

続いて特別講演会では、京都鉄道博物館副館長・松井元康さん（H2/1990卒）よ

り、「京都鉄道博物館のご紹介+500系新幹線電車開発秘話」と題してご講演いただきました。博物館の紹介に続き、「より速く、より静かに、より快適に」という設計思想のもとに進められた500系新幹線の開発経緯が語られ、軽量高剛性のアルミ構造、蛇行動を抑制する台車設計、トンネル微気圧波を低減する流線形先頭構造、パンタグラフの騒音低減に寄与したボルテックスジェネレーターなど、機械工学の粋を集めた技術開発の裏側が紹介されました。航空機技術なども取り入れた研究開発の実際と技術の進化を支える開発者の情熱に、参加者一同深い感銘を受けました。

その後の特別企画として、京都鉄道博物館の見学会が行われました。館内自由見学に加え、松井副館長による特別ガイドツアー、学芸員による解説ツアー、SL乗車などが実施され、通常は見学できない箇所も特別に公開いただき、参加者が大変満足した様子でした。

再びホテル会場に戻り、新代表幹事・土屋智由さんの司会により懇親会が開催されました。仲田摩智会長のご挨拶、井上恵太さん（S36/1961卒）の乾杯のご発声に続き、歓談ののち、京機会活動において特に貢献された会員への表彰が行われました。会長賞は松久寛さん（S45/1970卒）に贈られ、また支部推薦による活動優秀賞が中国四国支部の佐藤重喜さん（H5/1993卒）をはじめ5名の方に授与されました。ご欠席の受賞者については、各支部代表の方に代理でご受領いただきました。

さらに、京都鉄道博物館「お土産」抽選会も行われ、会場は大いに盛り上がりました。賑やかな雰囲気の中、全員で肩を組み「琵琶湖周航の歌」を斉唱し、学生会の桑原和暉さん（R7/2025卒）の一本締めをもって閉会となりました。最後まで和やかに歓談が続き、盛会のうちに総会を終えることができました。ご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。



仲田会長のご挨拶

松井さんによる特別講演



京都鉄道博物館見学会



懇親会

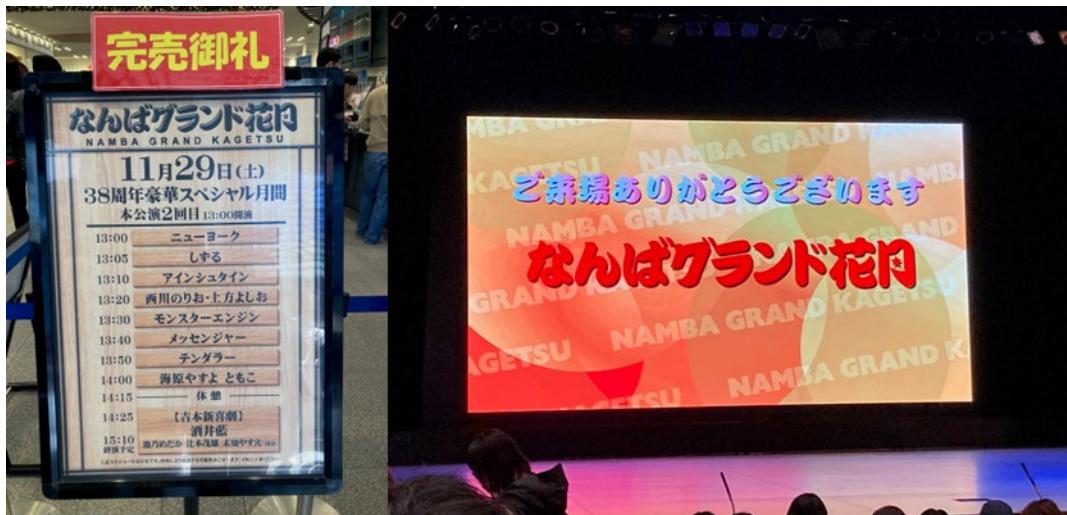


集合写真

関西支部：京機カフェ（お笑い）開催報告

奥田 寛 (S55/1980卒)

11月29日（土）に京機カフェ（お笑い）をなんばグランド花月で開催しました。今回の参加者は13名でうちカップル（ご夫婦）が4組でした。



前半（漫才）

「ニューヨーク」「しづる」「AINSHUTAIN」「西川のりお・上方よしお」
「モンスターエンジン」「メッセンジャー」「テンダラー」「海原やすよ・ともよ」

後半（新喜劇）

「酒井藍（座長）」「池のめだか」「辻本茂雄」「未知やすえ」などが出演

漫才はいずれもM-1上位組などで、客席を巻き込んだ笑いの渦でした。個人的にはやはりベテラン勢のボケが秀逸！！！

新喜劇のストーリーは、子だくさんの家庭にテレビ取材が来て大騒動になるきわめてシンプルなドタバタ劇ですが、相変わらず定番のギャグで客席は大爆笑！！！
ただ、個人的に気になったのが「池のめだか」のいつものボケキャラが精彩を欠いていたような・・・年齢を考えると無理されているようで心配でした。

観劇後は、いつもの「ニューミュンヘン南大使館」で大宴会！！！

ではまた来年！！！



大阪・関西万博 写真レポート 最終第3弾

岡本雅昭 (S47/1972卒)

大阪・関西万博は10月13日、『いのち輝く未来社会のデザイン』をテーマに184日間の会期を無事・成功裡に終えました。一般来場者2,560万人、9月中旬以降、連日、大盛況でした。閉会式では吉村大阪府知事が会場スタッフ、ボランティア、医療従事者、警備員、学校の先生と子供達などへ「ありがとう」を連呼され、「日本の技術、伝統、文化を共有し、6ヶ月間世界が一つになった」とのスピーチに感動しました。

4月14日から10月10日まで、筆者は業務の傍ら、週1回を目標としていましたが、最終段階で入場規制が強化され、9月中旬～入場予約が出来なくなりました。その対策として、ベトナム、マレーシア、サウジアラビア、東ティモール、インドネシア各大使館主催のビジネスフォーラムへの参加を試みました。特別VIPパスを提供願い、朝一から計8日間入場出来ました。結果として、目標以上の合計28日間の万博訪問を達成出来ました。

スマホ・データから、会場訪問回数28日間、撮影写真枚数4,739枚、総徒歩距離299km (11km/日)、総徒歩時間102時間13分 (3時間39分/日) でした。見学したパビリオン数は、595館 (21館/日) となり、全パビリオン数165館とすると、3.6周を巡ったことになります。最多訪問先は、インドネシア館(9回)、インド館(6回)、中国(5回)とアジア好みと予約不要の理由です。一日最多パビリオン見学数は、4月24日の23館 (コモンズ館を含まず)、比較的に入場が容易な隣同士のEU、バルト、カンボジア、アルジェリア、チュニジア、チリの6館や筆者お好みのネパール、サウジアラビア、いのちのあかし、コモンズB館やD館は4回ずつ、質実剛健なトルクメニスタン、美しいパビリオンのオーストラリア、スペイン、アラブ首長国連邦各館は3回ずつの訪問でした。

10月10日 (金) 最後の28回目の訪問も、インドネシア商談会への招待で参加出来ました。大阪・関西万博訪問の締めくくりとして朝一番から大屋根リングを時計周りに一周し、目に焼き付けました。天候は薄曇りで涼風が吹き快適な朝の散歩が出来ました。多くの外国人や日本人と知り合い、世界の歴史や文化に触れると共に、大変貴重な体験や経験を積む事が出来ました。お陰で体重が4kgも減量出

来ると言う副次的効果も得られました。

大阪・関西万博2025、万歳です！

半年間を振り返り、面白かった出来事や出会いを時系列で報告します。

10月6日（25回目訪問）、午前中のインドネシア館ビジネスフォーラムを終えて「静かな森」へ向う途中、大変幸運にも「いのちの未来」館へご視察される天皇・皇后両陛下にお目に掛かる事が出来ました。炎天下で2時間30分最前列で並びましたが、自分の目で天皇・皇后両陛下が優しい笑顔で手を振られるお姿を拝見致しました。

5月9日（5回目訪問）、シンガポール館の視察を終えられ車で退出される愛子内親王殿下が車内から笑顔で手を振られるお姿をお見送りしました。



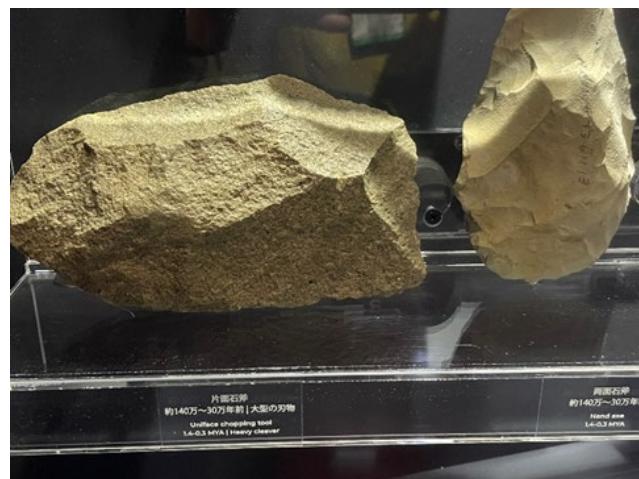
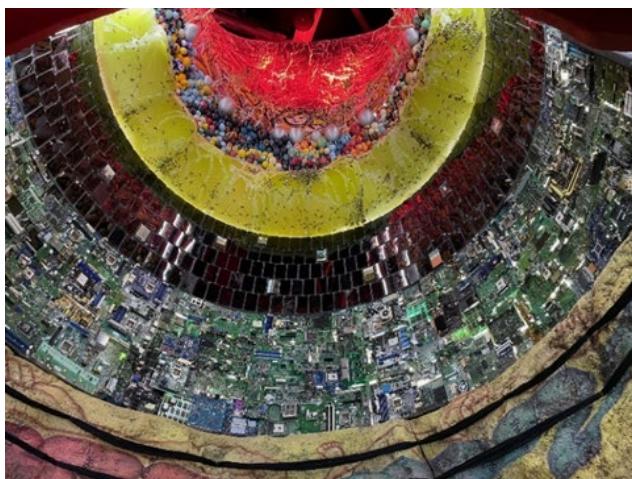
5月23日（7回目訪問）、バルト館フロントで盗難事件のアト、大量に寄付されたミヤクミヤクとバラビちゃん（きのこのマスコット）。左下図

5月28日（8回目訪問）、トンガのスタッフMilika POMANAさんと海面上昇に伴うトンガ王国危機の話をしたアト、記念撮影。右下図



6月5日（9回目訪問）、PASONA NATUREVERSEでの進化の歴史を表わした巨大な『生命進化の樹』（地層）から、強烈な印象を受けました。左下図

アルジェリア館に展示される先史時代の石器類の内、140～30万年前に使用されていた古代の大型片面石斧。右下図



木材由来の樹脂で作られた世界最大の3Dプリント建築（竹中工務店）でギネス世界記録の認定証も飾られた直径10m以上のネギ坊主型の休憩所の天井中央穴からの清々しい青空。透き通った最高の眺めでした。左下図

ポーランド館フロントのマスコット一同。微笑ましい姿でした。右下図



6月25日（10回目訪問）、大阪ヘルスケアパビリオン展示の「iPS心筋シート」はピクピクと動いてました。科学の進歩は凄いですね？ 次頁左図

7月1日（11回目訪問）、マーシャル諸島館の奥の壁に貼り付けられた「オボン」(Obon)。硬くて平らなココヤシの葉の主脈をパンダナスの葉で覆った壁飾り。直径50～60cmで、ハイビスカスの纖維で出来た模様は「テメリフェ」と言うそう。美しくてユニークで涼しそうな印象でした。次頁右図



大人気で混雑が続いたパキスタン館のSALT RANGEは、パンジャーブ州に広がる山脈で、切り立った峰、丘陵や渓谷が連なっています。この地は、地質学と古生物学の野外博物館とも言われています。約2000万年前に渡る生命の化石の記録が際立っています。SALT RANGEは、インダス文明の交易ルートの一部で、塩や鉱物資源を様々な地域に供給していたとか。いろいろな色の岩塩に囲まれて別世界を訪れている様な感覚でした。左下図

7月11日（12回目訪問）、大阪ヘルスケアパビリオンで55年ぶりに復活展示された「ミライ人間洗濯機」。洗濯後の観客の最初の一言は、「気持ちが良く、知らない内に眠っていました。心まですっきりしています。」でした。右下図



7月18日（13回目訪問）、シンガポール館の3F天井には、2Fで書き込んだ希望の言葉が天空に浮かび出される工夫があり、思わず七夕の夜空を思い出しました。左下図

7月25日（14回目訪問）、ネパール館名産の敷布が風に揺られてヒマラヤを連想させました。右下図



万博閉幕日に建築・景観部門で金賞（尚、銀賞はスペイン、銅賞はUAE）を受賞したサウジアラビア館。建物数が多く、潤沢な予算で2030年リヤド万博を引き寄せるエネルギーを感じました。

注記：展示デザイン部門では、中国が金賞、インドネシアが銀賞で、テーマ解釈部門では、イタリアが金賞、ドイツが銀賞でした。なるほど！ 左下図

8月8日（16回目訪問）、サントメ・プリンシペのスタッフ、大阪教育大卒のAdelino Semedoさん。例の緯度0度×経度0度の伝説の張本人。今見れば、ユーモアたっぷり（盛ってたの）ですね？ 右下図



8月15日（17回目訪問）、南米大陸ブラジル北に位置するスリナム。長時間おしゃべりしたアト、展示中の国名と国の形を印刷したカバンを撮影しているとお土産だ！と気前よく展示物をプレゼントしてくれました。左下図

8月22日（18回目訪問）、住友館内の小部屋の天井には色取り取りの葉っぱの組合せが強烈な印象でした。見事なアートですね？ 右下図



8月29日（19回目訪問）、ウズベキスタン館の2F広間「知識の庭」には世界遺産イチャンカラの金曜モスクをモチーフにした286本の木材柱がとても印象的。素晴らしい香りと新木の初々しさ。左下図

PASONA NATUREVERSEの「拍動するiPS心臓」は、子供たちに大人気。何時までも見飽きない子供。右下図



9月4日（20回目訪問）、『会場内Public Art』 21点（展示アート15点、壁面アート6点）、並びに、『静かな森』6点の内、森入口2ヶ所に展示されたオノ・ヨーコ作『平和と人権（Cloud Piece）』作品。次頁左図

9月9日（21回目訪問）、マレーシア・ビジネス商談会後に見、強烈な印象を受けた「マレーシアの文化と民族の豊かな多様性を描いた大規模な壁画」のアートワーク。鮮やかで大胆な色彩を用い多様性を訴えている。右下図



10月1日（24回目訪問）、チュニジア館の出口は、国を代表する花、ジャスミンの白い花の花簾。美しいフレームでした。左下図

マザー・テレサは、北マケドニアで1910年8月26日に誕生。8歳で父の死後、敬虔なカトリック信者の母の影響を受け、インドのカルカッタで貧しい人々への奉仕と愛の実践を称賛され、1979年にノーベル平和賞を受賞しました。右下図



「未来の都市」館のKAWASAKI製「CORLEO」は、4脚の悪路走行性能を持つ未来のOffroad Personal Mobility。（筆者の元勤務先）次頁左図

会場内を駆け抜けるe-Mover（EVバス）が大活躍。静かで乗り心地抜群でしたが、とにかく狭くて大人数の交通手段とは程遠かった。次頁右図



西ゲート近くで子供達に愛嬌を振りまく『生・ミヤクミヤク』。左下図
特別VIPパスを7回も発行してくれたインドネシア商談会（感謝、感謝！）での集合写真。筆者は後列右から3番目。右下図



10月10日（最終28回目）、大屋根リング入口にはギネス世界記録『公式認定証』が燐然と掲げられています。お世話になりました！左下図
思い出作りに大屋根リングを時計回りに一周。朝一は静かで素晴らしい！



午後、大屋根リング、アメリカ館前のエスカレーター上にも、乗るための長蛇の列、さらに大屋根リング上も人で人で大混雑でした。左下図

大人気のアメリカ館から出て来、上気し満足した顔つきの小学生達。右下図



秋の月に映える世界最大の木造建造物：大屋根リング（10月1日撮影）。良かつた！左下図

東ゲート前の世界各国の国旗列。強い風に良く靡いていました。右下図



大阪・万博最後の写真は、“フィナーレ「ミヤクミヤク」”のスタンプです！



有難う御座いました。終わり。

昭和53年卒学年同窓会報告

上原一浩 (S53/1978卒)

さわやかな秋晴れの中、学年同窓会を11月24日（月）がんこ 高瀬川二条苑で開催し17名が集まりました。（毎年学年同窓会を開催していますが、幹事（上原）の怠慢で3年ぶりに報告させて頂きます。）

紅葉の美しい庭の景色を眺めながら、互いの近況や学生時代の思い出などを語り合ったりし、あっという間に楽しいひと時が過ぎました。

最後に皆で恒例の野村さんの音頭で琵琶湖周航の歌を合唱しましたの再会を誓いました。

ほとんどの参加者が70歳（以上）になりましたが、サミュエル・ウルマンが「青春の詩」で謳った「青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ」、「年を重ねるだけで人は老いない」を実感しました。



お願い

昭和53年卒の方で退職などを機にメールアドレスが不明な方が増えています。幹事の上原(uehara@bcc.bai.ne.jp)までお知らせ頂きたく宜しくお願い致します。